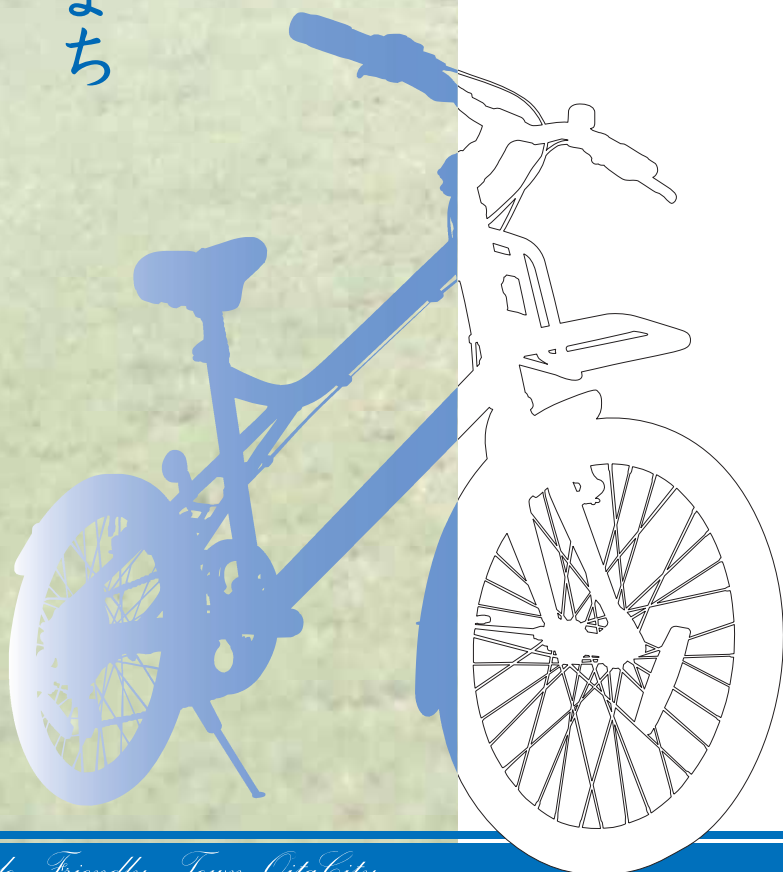




自転車が似合うまち
新しい文化を創造するまち



大分市自転車利用 基本計画



大分市

平成18年3月

市民のひとりごと

ある休日の朝、天然酵母で焼いたパンのやさしい匂いに誘われて、一人の初老の自転車乗りがオープンカフェに立ち寄った。

街の中心部に位置するちょっとオシャレなビルの1階にあり、心と体にやさしい食べ物と場所をさりげなく用意する。そんな気のきいた店だ。

この店との出会い、店主との会話、自転車乗りのひとりごとで耳をかたむけた。

ひんやりとした朝、少しだけ早起きをして、古くなったが大事にしている自転車にまたがり、クルマの少ない街中へ出かけた。

ここでは「バイシクルフレンドリータウン～自転車が似合うまち～」をみんなで創ってきた。大きな道路の歩道は自転車の通るところが分けられ、段差もなく、人にやさしい安心、安全設計だ。ウォーキングを楽しんでいる人に気をつけて、声をかけながら、ゆっくり走った。すれ違うシンボルマークの付いたレンタサイクルも今では見慣れた街の風景だ。

街にはいろいろな道がある。大きな道、細い道、まがった道。でも、ここの道は全部広く感じる。すこし前までは渋滞がひどく、歩く人も自転車もクルマもすべての人がこまっていたこの街。今はみんなで道の使い方を工夫した。みんなが共存していける道を創った。そんな道を楽しみながらゆっくりとしたペースで自転車マップ片手にポタリング。すると何か良い匂いがしてきた。

そこにはこの店があった。自転車でゆっくり走るとこんなうれしい発見がある。近くに新しくできた駐輪場に自転車を止め「おはようございます」とヘルメットを取りながら店に入った。「ヘルメット、いいですね」と店主。

「はい、自分の身体ですからね。このごろヘルメットを付けた子どもを乗せたお母さんを見かけるけど『守ってる』って感じていいよね」。そんな会話が弾む。

そこですこしおそい朝食をとる。渋滞もないおかげで空気もきれいで気持ちがいい。

近くに駐輪場ができたおかげで歩道を使ったオープンカフェもできた。こんな店が何気なくあるこの街の眺めが誇らしい。

おしゃれな椅子に深く座りながら、きれいな空気を胸いっぱい吸い込んだ。注文していたコーヒートパンが来るまで街の風景を眺めていると、つい、ひとりごとが出た。

「あ～気分が良い～ 空気の匂いってするんだな～
さて、今日はどこ行こう
ゆっくり走る「おおいた」もいいよな」

このイメージは、平成17年度に行った「アンケート」や「ワークショップ」「バイシクルフレンドリータウン宣言記念事業」などで伺った市民の生の声をもとに「こんなまちになったらいいな」と思い書いたものです。

自転車文化が薫るまちを夢見ながら

大分市

